

# 自動車ジャーナリスト協会 茂田会長に聞く、タイヤの空気圧点検の重要性

## □月1回以上の空気圧点検 実現のためにも「2週に1回」を心がけて

今回の調査では、タイヤの空気圧点検を月1回以上行っているドライバーは2割しかいませんでした。なぜ空気圧点検を行わないのかと言えば、点検をすること自体を知らない、もしくは、しなくてもいいと思っている人が多いからでしょう。

実際、タイヤの空気圧が多少減っても、見た目や乗り心地で分かる人はなかなかいません。例えば、タイヤがくぎを踏んでも、すぐに走れなくなるわけではなく、徐々に空気が抜けていきますが、すぐに運転には影響しないケースもあります。そのため気が付かず、に数日走っていると、タイヤの劣化が激しくなり、気が付いた頃にはボロボロになって使い物にならなくなるわけです。パンクして徐々に空気が抜ける現象、いわゆるスローパンクチャーが多々あります。自分では気が付かなくても、空気圧を測ることでスローパンクチャーも発見でき、タイヤが傷まないうちに修理することができます。

タイヤの空気圧点検をすることは、タイヤを大事に使うためだけではなく、車の燃費やコーナリング、乗り心地にも影響します。そして何よりも乗る人の安全に関わる問題です。タイヤの空気圧は月1回以上の点検が叫ばれていますが、個人的には「2週間に1回」を心掛けることで、月1回が実現できるようになるのでは、と思っています。

## □タイヤの空気は抜けるもの 「マイエアゲージ」を常備して空気圧測定を習慣化しよう

距離を走らないから点検はしないという人少なくないようですが、何もしなくてもタイヤの空気は抜けていくものです。自転車のタイヤが穴が空いていなくても自然と空気が抜けるのと同じこと。「車は高性能だから、空気が自然と抜けるなんて…」と思っていませんか？確かに車の性能はどんどんよくなって、暖機運転も不要になり、エンジンオイルの交換時期も長期化し、メンテナンスも手軽になったことから、タイヤもメンテナンスフリーと勘違いしてしまうのかもしれません、ゴムの性質上、タイヤの空気は抜けます。

空気圧はガソリンスタンドなどで測定してもらえますが、私のオススメは空気圧が自分で測れる「マイエアゲージ」を持つことです。空気圧は温度と関係し、気温が高いと気圧も高く気温が低いと気圧も下がるので、季節や気温差はもちろん、日なたと日陰でタイヤごとに違ってきます。空気圧は走行前のタイヤが冷えた状態で測定することが望ましいのですが、「マイエアゲージ」があれば乗車前にすぐに測定できます。空気圧は簡単に測れるので、乗車前測定を習慣化するとタイヤの変化が手にとるように分かるようになります。あれこれこだわりたくなりますよ。エアゲージはカー用品店などで、シンプルなものから多機能なものまで、1,000円前後から販売されています。

## □ドライブ前に空気圧だけでなくタイヤまるごとチェックして

普段から運転する人も、久しぶりに運転する人も、まずは点検をしてください。タイヤに関しては空気圧はもちろんですが、タイヤの溝もチェックしてください。△マークのスリップサイン（残溝1.6mm）が出ていなければ、車検も取れて走行可能ですが、安全性を考えれば溝は深い方が安心です。溝の深さが足りないと、雨天の高速道路では要注意。タイヤが水に浮いてハンドルもブレーキも効かなくなるハイドロプレーン現象も起きやすくなります。新品のタイヤの溝はおおよそ8mm程度ありますが、私は半分程度になったら要注意だと考えています。また、タイヤはゴム製品なので、溝が残っていても経年劣化している場合があります。中古車の場合、車の製造年は分かっていても、タイヤがいつ製造されたかは案外知らないものです。タイヤの側面には4桁の数字が表示されており、後ろの2桁が製造年、前の2桁が製造週を示しています。例えば「4018」なら2018年の40週目（10月上旬）に製造されたことになります。保存状態にもよりますが、6年以上たっているようであれば交換の目安としているメーカーもあるようです。ちなみにJATMAでは、10年を目安に交換を推奨しています。

また、タイヤを同じ位置で長期間使用すると、前後で摩耗が異なる場合があります。タイヤを長持ちさせ安全に走行するためには、タイヤの位置を入れ替える定期的なローテーションなどの対応も必要です。連休の1日を車のメンテナンスの日にするのも、有意義な過ごし方ではないでしょうか。

### 茂田潔（こもだ・きよし）さん 日本自動車ジャーナリスト協会会長



1950年 神奈川県川崎市生まれ。自動車レース、タイヤテストドライバーを経て、1984年からフリーランスのモータージャーナリストになる。著書「ドライビングの常識・非常識—あなたの運転ここが危ない!」「カラー図解 あなたの“不安”をスッキリ解消! クルマの運転術」など執筆活動も行う。モータースクールのカリキュラム監修なども担当。

2016年から日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）会長。日本カー・オブ・ザ・イヤー選考委員、JAF交通安全・環境委員会委員、NPO法人ジャパンスマートドライバー機構理事長なども務める。